

REC'D 4 JAN 2005

WIPO

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

(法第12条、法施行規則第56条)

[PCT 36条及びPCT規則70]

出願人又は代理人 の書類記号	PA3-9002WO	今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP03/16879	国際出願日 (日.月.年)	26.12.2003	優先日 (日.月.年) 14.01.2003
国際特許分類 (IPC)			
Int. Cl ⁷ A63F 1/06 , G06K 17/00			
出願人 (氏名又は名称)			
エンゼル商事株式会社			

1. この報告書は、PCT 35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第57条（PCT 36条）の規定に従い送付する。
2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 5 ページからなる。
3. この報告には次の附属物件も添付されている。
- a ☐ 附属書類は全部で _____ ページである。
- ☐ 補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙（PCT規則70.16及び実施細則第607号参照）
- ☐ 第I欄4.及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙
- b ☐ 電子媒体は全部で _____（電子媒体の種類、数を示す）。
配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。（実施細則第802号参照）
4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

- | | | |
|-------------------------------------|-----|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> | 第Ⅰ欄 | 国際予備審査報告の基礎 |
| <input type="checkbox"/> | 第Ⅱ欄 | 優先権 |
| <input type="checkbox"/> | 第Ⅲ欄 | 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告的不作成 |
| <input type="checkbox"/> | 第Ⅳ欄 | 発明の単一性の欠如 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 第Ⅴ欄 | PCT 35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 第Ⅵ欄 | ある種の引用文献 |
| <input type="checkbox"/> | 第Ⅶ欄 | 国際出願の不備 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 第Ⅷ欄 | 国際出願に対する意見 |

国際予備審査の請求書を受理した日 20.07.2004	国際予備審査報告を作成した日 07.12.2004	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/J P) 郵便番号100-8915 東京都千代田区般が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 吉川 康史 電話番号 03-3581-1101 内線 3276	2N 9320

様式PCT/IPEA/409 (表紙) (2004年1月)

BEST AVAILABLE COPY

第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、_____ 語による翻訳文を基礎とした。

それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

- ☐ PCT規則12.3及び23.1(b)という国際調査
☐ PCT規則12.4という国際公開
☐ PCT規則55.2又は55.3という国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第 _____ ページ、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第 _____ 項、出願時に提出されたもの
 第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
 第 _____ 項*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ 項*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

- ☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表(具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

- ☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表(具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性(N)	請求の範囲	5-9, 12-15, 19-26, 31-35	有 無
	請求の範囲	1-4, 10, 11, 16-18, 27-30	
進歩性(IS)	請求の範囲	7-9, 14, 15, 22-26, 31-35	有 無
	請求の範囲	1-6, 10-13, 16-21, 27-30	
産業上の利用可能性(IA)	請求の範囲	1-35	有 無
	請求の範囲		

2. 文献及び説明(PCT規則70.7)

文献1: JP 2002-165916 A (株式会社日本ビー・エム・シー) 2002.06.11,
請求項1、請求項2、【0011】-【0014】、
【0018】、【0019】、図2、図3、図8
文献2: WO 02/064225 A1 (エンゼル商事株式会社)
2002.08.22, 全文, 全図

請求の範囲1-4, 10, 11, 16-18, 27-30に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1の請求項1、請求項2、【0011】-【0014】、【0018】、【0019】、図2、図3、図8に記載されているので、新規性、進歩性を有しない。

請求の範囲5, 6, 12, 13, 19-21に係る発明は、文献1と国際調査報告で引用された文献2(全文, 全図)とにより進歩性を有しない。

請求の範囲7-9, 14, 15, 22-26, 31-35に係る発明は、国際調査報告に引用されたいずれの文献にも記載されておらず、当業者にとって自明なものでもない。

第VI欄 ある種の引用文献

1. ある種の公表された文書 (PCT規則70.10)

出願番号 特許番号	公知日 (日. 月. 年)	出願日 (日. 月. 年)	優先日 (有効な優先権の主張) (日. 月. 年)
--------------	------------------	------------------	------------------------------

JP 2003-70956 A
(P, X)

2003. 03. 11

2001. 09. 07

2. 書面による開示以外の開示 (PCT規則70.9)

書面による開示以外の開示の種類

書面による開示以外の開示の日付
(日. 月. 年)

書面による開示以外の開示に言及している
書面の日付 (日. 月. 年)

第Ⅳ欄 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付についての意見を次に示す。

- (1) 請求の範囲 27-35 は、情報処理方法、プログラム、記録媒体、マーク読取方法に関する発明として、各ステップを記載しているところ、各請求の範囲の記載では、各ステップの動作の主体が特定されておらず、コンピュータが備える何らかの手段が各動作を行うとも、人間がコンピュータを操作して各動作を行うともいずれとも解釈できる。
したがって、上記請求の範囲は、異なる二の概念のもの含んでいるため、上記請求の範囲に係る発明を一義的に把握することができない。
- (2) 請求の範囲 7 に係る発明は、請求の範囲 2 を引用し、「前記読取手段は、各カードのマークを読み取る」としているところ、ここで読取手段が取得する「マーク」という情報と、その情報により、登場カードと退出カードが一致するか否かを「判定」という作用との関係が、当該請求の範囲及び引用された請求の範囲の記載からは明らかでなく、全体として、どのようにして「判定」を行うものであるのか、一義的に把握できない。